



工事途中の石橋の様子（松山町第二古渡橋、昭和15年架橋）

歴史さんぽ

第3回

「志布志に残る石橋」



写真上：旧井久保橋（二連アーチ橋）
写真下：牧野開田新田山架け越し水路橋（桁橋）

文：林悦子
（志布志市文化財保護指導員）

石橋の歴史は古く、ヨーロッパでは紀元前に石橋が作られ、人々に利用されてきました。石橋の技術は時代の流れとともに、世界に広がり、日本には江戸時代の初めに伝わったとされています。市内には現在までに64の石橋が確認されており、全国でも有数の石橋の多い市です。また、架け替えや流出等で失われた石橋は29橋あります。

田之浦には、2連アーチ式の旧井久保橋があります。この橋の傍に、近隣集落の住民や団体が資金や労力を出し合って架橋した経緯を刻んだ石碑があり、架橋が公共事業ではなかったことを物語っています。同じく田之浦の牧野には、曾於市花房に作られた井堰から流れる用水路を、石組み橋脚4基で支える「架け越し橋」が残っています。この「架け越し橋」は、一度下がった水位を逆サイフォンの

原理で再び上げる「吹き上げ」が現在でも使われており、当時の石工技術が伺えます。

伊崎田にある帖仙橋はアーチ式の石橋です。親柱には「大正十三年」「御成婚記念」と彫られています。これは、架橋時、昭和天皇の皇太子時代に御成婚なされた時期と重なり、それをお祝いする意味で彫られています。

泰野には「山角のち」と呼ばれるアーチ式の水路橋があります。この地域では水路橋のことを「ち」と呼んでおり、橋名と併せて今でも利用されている現役の水路橋です。

このような石橋は、一部の集落で清掃活動等が行われているものの、その多くは管理が十分ではありません。先祖が造り、遺してきた意志と、貴重な文化財を未来へと残していきたいものです。

市内では
いろんなことが
ありました。

まちの話題

夏だ！カレーだ！子ども食堂だ！



志布志子ども食堂が夏休みも開催され、給食のない夏休みの毎週金曜日に美味しいカレーが提供されました。

7月28日は、旧JA森山事業所で開催される森山コーヒースロンでの開催となりました。森山小学校の児童やサロン参加者のほか、かごしまねりん大学や老人クラブ松山支部の皆さんも試食し、100名を超える参加がありました。子ども食堂は8月18日、25日にも商店街で開催されます。

A L Tセルフ先生を絆大使に

本市で2年間A L Tとして勤めたセルフ先生が、総務大臣から「絆大使」に任命されました。

7月26日に任期満了を迎えたA L Tのセルフ先生が、日本や志布志市と母国との友好関係を深める「絆大使」に任命されました。

セルフ先生は「絆大使として任命されるのは、とても嬉しくありがたい。日本とアメリカ、さらに世界の絆を強めたいです。」と抱負を話しました。



6月に行われた5歳児歯科検診で、むし歯も処置歯も無かった子どもたちです！



ももえ 百恵 ちゃん



あいと 藍人 ちゃん



そうた 颯大 ちゃん



まい 真衣 ちゃん



いおん 偉音 ちゃん



わかな 和佳奈 ちゃん



りゅうが 竜雅 ちゃん



おうた 桜太 ちゃん



のぞみ 希実 ちゃん



ここあ 心愛 ちゃん

21ページにも掲載しています。ご覧ください。